

南九州短期大学の沿革と教員養成の目標

●国際教養学科（認定課程：中二種免（社会）、中二種免（英語））

本学は昭和 40(1965)年に英語科（平成 14(2002)年に国際コミュニケーション学科に名称変更）のみの短期大学として創立され、その翌年昭和 41（1966）年に教養科が設置された。教職課程は英語科に中二種免（英語）課程が、教養科においては中二種免（社会）課程が設置された。平成 15（2003）年に国際コミュニケーション学科と教養科を統合する改組を行い、国際教養学科が設置された。改組と同時に国際教養学科に中二種免（社会・英語）が認可されている。国際教養学科設置の趣旨は、「国際化と情報化は、並行的かつ相互促進的に進行しており、主として地方のビジネス界に就職していく本学学生の実態を考慮するとき、両者（英語コミュニケーション学科と教養科）を統合したより総合的な教育が求められている。」とし、国際教養学科の目標は、「日本語能力を土台とする幅広い教養を基礎に、実践的英語力、コンピュータ・リテラシー、実践的ビジネス知識を修得することにより、発信型コミュニケーション能力の求められる 21 世紀ビジネスに即応した人材を養成することにある。」とした。このような国際教養学科設置の経緯並びに設置趣旨の観点から、教職課程においては引き続き社会及び英語の 2 免許を有する課程として設置認可がなされている。

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>「教師論」 教職の最も基礎的な知識や心構えを養い、以降の教職に関する学習の基盤づくりを行う。授業を通して、教師の役割や責任について理解を深め、教師という職業の重要性や魅力に気づき、教職への進路意欲を高めるとともに、教育現場において必要とされる指導力や学級経営力などの基礎力を養う。</p> <p>中二種免（社会） 「地理学」 世界各地域の人々が住む自然環境や社会環境の違いによる地域的特色と共通の事象を理解し、地理的認識を養う。 「法律学」 現代社会を理解する上で必要となる基本的法律知識を修得し、法的思考を身に付ける。裁判所での裁判傍聴を体験し、法に基づく公正な裁判制度や法の支配の原理、裁判員裁判制度等について理解を深める。 「倫理学」 多感な青年期における人格形成と、人間としての在り方生き方について理解と思索を深め、市民社会の有為な形成者であり、良識ある公民としての実践的意欲と態度を育む。</p> <p>中二種免（英語） 「ライティング&グラマー I」 2 年間の学習の最初の段階で、英語の基礎力となる文法の重要事項を復習する。単文や短いパラグラフを文法的正確さを保ちながら書けるように指導し、英語の運用能力を高める。 「英語音声学」 英語の発音に関する基礎理論を日本語と比較しながら習得すると同時に、生徒に発音を指導する際に役立つ知識やスキルを身につける。また、発音記号を読めるようになるようにし、以降の英語学習や生徒への発音指導にも資するようにする。</p>

	後期	<p>「教育原理」 教育という人間の営みを、人間性、歴史、現代社会との関わりで学習し、教育に関する普遍的な基礎理論を身に付ける。</p> <p>「道德教育の研究」 道德教育の概念や歴史、道德性に対する考え方などに関する理解を深める。また、学校における道德教育は、教育活動全体を通して行われるものであり、その要となるのが道德の時間であることを理解する。</p> <p>「特別活動論」 望ましい集団活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践態度を育てるという特別活動の趣旨と理論を理解し、その実践方法を身に付ける。</p> <p>中二種免（社会） 「社会科教育法」 社会科教育の意義、特質、学習指導要領の趣旨と要点、社会科各分野の目標・指導内容、指導上の配慮事項、評価の在り方等についての理解を深めるとともに指導計画や学習指導案の作成や模擬授業などの体験学習を通して生徒を対象にした指導ができる実践力の基礎を身に付ける。</p> <p>「日本史」 我が国の歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解するとともに、歴史に見られる国際関係を理解する。</p> <p>「世界史」 世界各地域に育った生産様式、成立した支配従属関係、それに伴う文化や伝統、人々の意識、そして対立や共存・交流について学び相互理解・国際協調の精神を養う。</p> <p>「社会学」 社会を多方面から考察し、現代の社会が抱えている問題・課題に気づき自らその解決を考える。</p> <p>「経済学」 マクロ経済学、国際経済論、経済開発論の基礎を学ぶことにより現代社会に起因する種々の経済現象を理解する。</p> <p>中二種免（英語） 「英語科教育法」 英語教科指導の基礎知識と基本技術を身につける。特に、模擬授業を実践し、教育実習への準備を行う。</p> <p>「英語学概論」 言語そのものや、言語としての英語に関する教養を深め、言語観・英語観を広げる。</p>
2 年次	前期	<p>「生徒指導・進路指導」 学校教育における生徒指導の原理や重要性、生徒指導上の課題並びに生徒指導における学級担任や教科担任の役割や生徒の自己指導能力の育成に必要な生徒指導の技法について理解を深める。また、生徒自身が自らの人間としての在り方生き方や自己の進路を探索する場としての進路指導の在り方について理解を深める。以上の学習を通して、中学生という発達段階にある生徒を適切に指導・支援できる基礎能力を養う。</p> <p>「教育実習」 教育実習の概要を理解する。教育実習を行う際に必要な心構えを理解し、授業実践や生徒指導に必要な基礎知識を身に付ける。</p>

		<p>中二種免（英語） 「リスニング&スピーキングⅢ」 リスニング及びスピーキング能力を中級の初期段階レベルにまで引き上げることを目標とする。 「英米文学概論」（通年） 現代にいたるまでの英米文学の流れを、それぞれの時代背景や社会、文化を視野に入れながら学び、社会変化と文学の変容を概観・理解する。</p>
	後期	<p>「教育心理学」 教育心理学の基礎的な概念を理解し、その実践方法を身に付ける。 「教育相談」 教育相談の意義と役割、教師が行う教育相談の特質、児童生徒の発達課題と指導・支援の在り方など教育相談に関する基礎的事項を学習し、重大な教育課題である不登校問題、いじめ問題、少年非行問題等の対応の在り方について考察を深める。また演習を通してカウンセリングの基礎技法を身に付ける。 「教職実践演習」 教職に関する学びの軌跡の集大成として位置づけ、教職課程の個々の科目の履修により修得した専門的な知識・技能の定着状況の最終的な確認を行いながら教員としての使命感や責任感、社会性や人間関係形成力の育成、教育的愛情をもって学級担任や教科担任として教科指導や生徒指導等の日常の職務を実践できる基礎的な資質能力を育成する。</p> <p>中二種免（英語） 「リスニング&スピーキングⅣ」 リスニング及びスピーキング能力が中級レベルにまで到達することを目指す。 「英米文学概論」（通年） 同上 「異文化コミュニケーション論」 異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを図る際に不可欠な基礎知識や考え方を身に付ける。多様性を受け入れることから文化が発展することを学び、学生の思考力、表現力、マナー等に変化が見られるようになることを目標とする。</p>